

正かなづかひ 理論と實踐

内容見本

目次

序文	野奇健秀 <small>のぎまたけひで</small>	3
イラスト	刑部しきみ <small>おまかへ</small>	9
エッセイ		
歴史的仮名遣は生きてゐる！	押井徳馬	10
私たちの歴史的仮名遣	三宅龍太郎	10
正字正假名と宗教心	對馬仁 <small>つしまひとし</small>	12
上方ことばと正假名遣ひ	彊 <small>きやう(キョウ)</small>	13
「新かな」と「正かな」のはざま	出人	15
「理論」篇		
歴史的仮名遣の原理	野奇健秀	19
正かなづかひの書き方ガイド	平頭通 <small>へいとうつう</small>	26
歴史的かなづかひの練習	空拇 <small>くうぼ</small>	32
楷體新書	山口翔平	38
国語問題の歴史	野奇健秀	59
「實踐」篇		
雨と風を詠む	酒井景二郎 <small>うらべとしはる</small>	81
物産展	卜部兼榛 <small>うらべとせはる</small>	82
春の夢跡	雨宮冬明 <small>あまみやふゆき</small>	85

男の娘爆誕しろ！	かふし／ <small>さじ</small> 挿繪・リオシ	90
大好きよ！ おねえさま	押井徳馬	105

書評、評論、その他

書評コーナー	名賀月晃嗣、平頭通、野奇健秀	110
僕の妹は福田恆存の『私の國語教室』を讀むか？	佐藤 俊 <small>すむろ</small>	114
日本數學史小篇	中山數次郎 <small>すうじろう(ロウ)</small>	118
軍歌評論と過去と未來のこと	ておりあ	134
改定常用漢字表試案への意見	平頭通	141
ファクションとしての正かなづかひ	連載 紙の闇黒日記(一) 野奇健秀	144
執筆者コメント(横書き)	執筆者一同	148

技術篇(横書き)

正かなづかひで入力する手引	ATOK篇	164
正假名遣ひを實踐する爲のSKK入門	名賀月晃嗣 江洲信也 <small>えすしんや</small>	160
正字正かな文書作成のヒント	第一回 一太郎・Indesign篇 押井徳馬	153

表紙・カヴァーデザイン	なかだ
題字	山口翔平
カット	野奇健秀
組版	船木直人、押井徳馬

歴史的仮名遣の原理

野寄健秀

仮名遣とは

狭義の仮名遣は、或発音を表すのに二つ以上のかなが考へられる時、それらの中から一つのかなを用ゐるやう定める規則の事を言ひます。

「い(行)く」の場合、「く」と云ふ発音を書くのには、「く」以外に選択肢はありません。けれども、「い(行)こー」の場合だと、「こう」「かう」「こお」等の複数の書き方が考へられます。そこで「行こう」と書くやう定めるのが「現代仮名遣」であり、「行かう」と書くやう定めるのが歴史的仮名遣です。

「現代仮名遣」の規則には、大体「発音通り」と云ふ傾向があり、一部に「語形に従う」と云ふ例外的な傾向があ

ります。しかし、「行こう」の場合、ただ「そのように書くものとする」と定められてゐるに過ぎません。「現代仮名遣」には案外斯うした「何の根拠もない規則」が沢山あります。

歴史的仮名遣には「詞は語それ自体の形に従ふ」「辞は文法の規則に基いて語形を定める」と云ふ規則があります。

「詞」「辞」と云ふ用語は文法用語ですから(後述)、歴史的仮名遣は根本的に「文法に基いて書き方を定める」と云ふ規則であると言つて良いと思ひます。文法とは即ち言葉の性質を法的に把握したものですから、日本語の文法に基く歴史的仮名遣は日本語の性質に基いて定められた表記の規則であると言へます。

ここで御断りしておかねばならない事は、歴史的仮名遣は「過去から現在そして未来に至るまで、ありとあらゆる時代を通じて存在する普遍的な日本語の性質に基いたかなづかひ」として定義されるべきだ、と云ふ事です。けれども、今はページ数もありません。今回は、「現代の日本語」を表記する事を念頭に置いて、現代の日本語の文法をもとに、簡単に説明するだけに留めたいと思ひます。

基本の三文型と文法事項

現代の日本語では、以下の三つの文型が基本の文型とされてゐます。(括弧内は例文)

- 何がどうする。(「犬が鳴く」「彼女が走る」「梅が咲く」)
- 何がどんなだ。(「夕陽が美しい」「お茶が熱い」「胃が痛い」※)
- 何が何だ。(「彼がリーダーだ」「明日は月曜日だ」)

これらの中に現れる「何が」の「何」——これは大雑把に体言と呼ばれます。「犬」「梅」「夕陽」「お茶」「胃」のやうな名詞や「彼」「彼女」のやうな代名詞の事です。

体言は、単独で言ふ事もありますが、複雑な内容の事を言表す時には必ず助詞がひつついてきます。「犬が鳴く」の「が」や、「明日は月曜日だ」の「は」がそれです。

また基本の三文型のやうなシンプルな表現は日常、滅多に使はれないもので、実際には「隣の犬がわんわん吠えてゐる」「彼は前回のプロジェクトのリーダーだった」のやうに複雑な表現が用ゐられますが、斯うした場面で出て来る「の」も助詞です。

「どうする」は、動作等を表す語で、動詞と呼ばれます。「鳴く」「走る」「咲く」といつた語の事です。

「どんなだ」は、物の姿や性質を表す語で、形容詞と呼ばれます。「痛い」「かはいい」「美しい」といつた語の事です。

動詞と形容詞は、ひつくるめて用言と呼ばれます。これらの語は、変化しない語幹と、変化する活用語尾とで

正かなづかひの書き方ガイド

平頭通

此処では歴史的かなづかひで実際に書いてみようと思つた人達に対して、参考となる解説を綴つてみました。

飽く迄も入門篇である事を前提としてをりますので、細かい話や、込み入つた内容には踏込まない事に致しました。皆様の参考になれば幸いです。又、例文として岩波文庫版の徳富蘆花『自然と人生』（一九三三年）を使用致しました。此の作品は仮名遣として拙い部分も幾らかはありますが、実例として十分であると判断し適切な部分の引用に努めました。兎も角も、最後まで読んで頂けると嬉しく思ひます。

一、最初は読む事から始めよう

若し歴史的かなづかひで文章を書きたいと思つたならば、先づは生きた言葉や文章から修得するのが得策でせう。普段から読んでゐれば、実際に書く時に大凡の仮名遣の見当を付け乍ながら、書く事が出来るやうになると思ひます。現在でも歴史的かなづかひで書かれた文芸作品は少からず存在します。例へば、丸谷才一の作品や、井上ひさしの『東京セブンローズ』や福田恆存の『サロメ』、樋口一葉や正岡子規や徳富蘆花等は、文庫本で手頃に読める歴史的かなづかひの作品かも知れません。かう云つた手頃な部分から這入つて行き、文学全集や古典文学等に裾野を拡げて行けばいゝと思ひます。私から敢へて薦めると

すれば、歴史的かなづかひで書かれた版の谷崎潤一郎の『文章讀本』になります。兎に角、生きた歴史的かなづかひに日頃から触れてゐる事が肝要です。

一、漢字で書ける所は漢字で書かう

国語は、漢字かな交じりを以てその表記の正則とすると言はれまして、適度に漢字とかなを交ぜて書く事が良い文章を書く要件の一つになります。たゞ闇雲に漢字やかなを交ぜて書けばいゝと云ふのではなく、体言や用言の語幹は漢字で、助詞や助動詞や用言の活用語尾を、かなで書くやうにすれば、メリハリのある文章が書けるやうになります。

「かは」「みづ」「こひ」「かへる」「こほり」等と、名詞をかなで書くより、「川」「水」「鯉」「蛙」「氷」等と漢字で表記すれば、仮名遣を気にする必要がなくなりますし、字音で読まれる漢字漢語の場合、漢字で表記すれば、難解な字音仮名遣を全く感知する必要がなくなります。唯、漢字漢語の場合、「語い」「ら致」「憂うつ」「皮フ」等、中

途半端な交ぜ書きは、文章が読み辛くなる恐れがありますので、お控へ下さい。

纏めると、国語を漢字かな交じりで書く限り、仮名遣が関係する部分は、助詞や助動詞や用言の活用語尾に限定されしまふのが実際なのです。

三、助詞は「は」「へ」「を」「さへ」と書く

助詞の「は」「へ」「を」は小学校で習つた其の儘なので、此処では「さへ」に重点を置いて説明致します。助詞の「さへ」は強い限定を表現した言葉で、話し手の意図が強く表れる特徴があります。「さへ」はハ行転呼により「サエ」と発音されます、其の点は助詞の「へ」と似た感じでせう。

【例文】「浮標も同然抑へ手がありさへせぬと」(一四三頁)、
「叔父叔母さへ承知致したならと」(二四五頁)

歴史的かなづかひの練習

空拵くうぼ

歴史的かなづかひの理論に触れたら、次は自分で書いてみませう。読むだけでなく自分で書くことで、歴史的かなづかひがぐつと身近になります。

ただ最初のうちは、自分で書いてみても、かなづかひが合つてゐるかどうか、心もとなく感じると思ひます。

そこで、正しい歴史的かなづかひを身につけるための練習問題と解説を用意しました。間違つてしまひがちな例を中心に取り上げてゐますので、ぜひ挑戦してみてください。

練習一

次の「現代仮名遣い」の文を、歴史的かなづかひに直してみませう。漢字は漢字のまま構ひません。

- ① こんなに重い思いをして荷物を持つてゐるんだから、食事を奢るくらいのこととはして欲しい。
- ② 川の向こう岸に集合なので、今から橋に向かうところですよ。
- ③ 太陽が空から消える前にあの山を越えなければ、飢え死にすらありえると思えたのです。
- ④ おかしいなあ、おとといから本に挟んでおいたしおりが無い。
- ⑤ おみくじが凶だったからって、そこまでいじけなくてもいいじゃない。
- ⑥ 知らず知らずのうちに、二人のきずなは少しずつ強まっています。
- ⑦ ごちそうさまでした。どれも大変おいしゅうござい

ました。

⑧ そう言えば「あうーっ」が口癖のキャラクタもおつたなあ。

解答1

① こんなに重い思ひをして荷物を持つてゐるんだから、食事を奢るくらゐのことはして欲しい。

イ音の練習です。「重い」「欲しい」は形容詞なので、「い」で書きます。それぞれ、文語の連体形「重き」「欲しき」のイ音便に由来してゐます。

「思ひ」は「思ふ」の連用形です。「ゐる」「くらゐ」はこのまま覚えるしかありませんが、漢字で「居る」「位」と書いて誤魔化す手もあります。

② 川の間かう岸に集合なので、今から橋に向かふところですよ。

「向かふ」の活用形です。前者は連用形「向かひ」のウ音便なので「向かう」となります。後者は単に連体形です。どちらも機械的に「向かふ」と書

いてしまひがちですが、ウ音便の時は「う」で書くのがポイントです。

③ 太陽が空から消える前にあの山を越えなければ、飢ゑ、死にすらありえると思へたのです。

エ音の練習です。「消える」「越える」などの「え」はヤ行の「え」であり、「へ」は出てきません。今でも新聞の見出しなどで見かける文語で考へると、終止形が「消ゆ」「越ゆ」となるので、ヤ行であることが解り易いでしょう。

「飢ゑる」は「植ゑる」と併せて、数少ない「ゑ」の含まれる動詞です。「ありえる」は「有る」「得る」の複合語なので「える」と書き表し、「思へた」は「思ふ」から来てゐますのでハ行となります。

④ を、かしいなあ、を、ととひから本に挟んでおいたし、りが無い。

オ音の練習です。「おいた」が「おく」由来なので「お」を使ひますが、「をかしい」「を」ととひは語頭に「を」が、「しをり」は語中に「を」が入る単

楷體新書

山口翔平

はじめに

皆さんは、いはゆる「新字体」¹や「旧字体」、「正字」をどのやうなものとお考へでせうか。旧字体は、新字体が制定されるまで書かれてゐた形で、新字体は制定されてから書かれ始めた略字？ いえ、さうではありません。昭和二十四年『当用漢字字体表』²の「まえがき」からすこし文章を引用したいと思ひます。

この表の字体の選定については、異体の統合、略体の採用、点画の整理などをはかるとともに、筆写の習慣、学習の難易をも考慮した。なお、印刷字体と筆写字体とをできるだけ一致させることをたてまえとした。

つまり新字体は、それまで使はれてゐた略字や「筆写字体」を採用したわけです。新字体が制定される以前、手書きの文字は旧字体で書かれてゐたのではなく、ある程度は新字体と同じ字体でも書かれてゐたのです。

では「筆写字体」とはなんでせう。ここでいふ筆写字体すなはち楷書は、中国の南北朝の頃から広く使はれるやうになつた書体で、これは隸書といふ書体をもとに生まれたものです。隸書は秦以前に使はれてゐた篆書といふ書

体が書きやすく変化して生まれたもので、漢で広まりました。篆書から隸書、楷書になるまでの間に字体は移り変はり、その移り変はりの中で磨かれてきた形が筆写字体なのです。

いっぽう七世紀、唐の頃に小篆³から人為的に、それまでの字体変遷の流れを無視した楷書の字体が作られました。また、『康熙字典⁴』の明朝体も小篆を基にして作られたものです。その後の活字は、「いはゆる康熙字典体⁵」と呼ばれる字体を使用してみました。前者後者どちらも正字と呼ばれるものですが、ここでは唐のものを「唐の正字」と呼び、いはゆる康熙字典体を「字典体」と呼ぶことにします。

人為的に作ったのですから、当然、唐の正字や字典体（印刷字体）と筆写字体とでは形が違ふものもあり、その場合、唐の正字・字典体は手書きするのに相応しい形ではありません。

- 1 『常用漢字表』に示されてゐる字体の通称。本記事ではその意味で使ふ。
- 2 『常用漢字表』の前身。昭和二十一年十一月十六日に内閣から告示。
- 3 後漢の許慎によって西暦一〇〇年に編まれた『説文解字』といふ字典に示されてゐる、秦で使はれてゐた篆書。
- 4 清の康熙帝の勅撰で一七一六年に完成した中国の漢字字典。
- 5 康熙字典の明朝体は皇帝の名を避けて欠画させたものなどがあり、それを直した字体。

玄

康熙字典の書体

玄

いはゆる康熙字典体

甲骨文

金文

眞

篆書

紀元前221年、秦が建つ。
文字を統一し、篆書を使用する。

眞

隸書

紀元前206年、漢が建つ。
早く書くために篆書から字体が大きく変化した隸書を公式の書体として使用する。

草書

行書

眞

楷書

南北朝の頃、隸書が変化した楷書が広く使はれるやうになる。

7世紀、唐の頃に篆書の字体を人為的に楷書化して書いた正字が現れる。

眞

明朝体

1716年清の時代に『康熙字典』が編纂され、小篆の字体を明朝体化したものが採用される。

眞

新字体

1946年(昭和21年)に『当用漢字表』を告示。
手書き字体や略字などを正式な字体として採用し、手書きや活字などでも広くその字体が用みられるやうになる。

旧字体はどう書けばいいのか

ここでは、伝統的な楷書の字体（筆写字体）をどのやうに書けばいいのかを書道的な観点から示したいと思ひます。その中でも字典体と筆写字体が大きく違ふものなどをピックアップしました。挙げてある筆写字体は、参考資料中の楷書で多く書かれてゐるものであり、あくまで一例です。また、新字体の中にも伝統的な楷書の字体を採用せずに字典体から採られたものが含まれてゐるのですが、ここでは割愛させていただきます。

同じ形がまとまるやうに漢字は以下の配列にしております。

- ・画の方向・位置が変はるものなど
- ・画がなくなるものなど
- ・「人」や「入」に関するもの
- ・点がつながるもの
- ・し字型に関するもの
- ・部分がつながるもの
- ・之繞
- ・その他

また、大きく示してある字の上段は字典体、下段は伝統的な楷書体などです。

彦 戸 免 益 平 半
彦 戸 免 益 平 半

画の方向・位置が変はるものなど

基本的に上部に来る「ハ」や「八」は「ソ」と書きます。「平」の中や「尙」「肖」などでも、新字体と同じ形が伝統的な形です。また「尊」「兼」などの伝統的な字体は新字体も違っています。ちなみに「率」の点の方向も新字体と同じやうに書きます。

「尊」と「兼」の伝統的な楷書

尊 兼

上部は「ク」のやうに書きます。下部は新字体のやうに切るものよりも、続けて書くものの方が圧倒的です。「絶」などでも同じです。但し、「頼」は「頼」と書きます。

新字体の字形で書きます。一画目は長いものも短いものもあります。

「メ」の部分は「ソ」と書きます。「彦」は「彡」の部分を「ン」と書く字体もあります。「産」「薩」「顔」などでも同じです。

国語問題の歴史

野寄健秀

一 日本語の表記について

日本語の表記は他の言語のそれに比べると非常に複雑で「難しい」と言われます。実際のところ、難易については決して単純に評価する事ができないのですが、使用する文字の種類と云ふ観点から見ればたしかに複雑であるとは言へるでせう。一見この事は当り前で、改めて指摘すべき事でもないやうに思はれるかも知れません。けれどもこの「複雑さ」が、日本語の歴史の中で様々な問題を惹起す原因となつてきたのです。それは依然として、多くの誤解を人々に生ぜしめ、社会に多くの混乱を生ぜしめてみます。ここで一往、日本語の表記について、整理してみようと思つた所以です。

吾々日本人は、常識的に、漢字とかなとを使つて文章を書いてみます。そこで改めて「漢字とは何か」「かなとは何か」と考へてみると、これを定義するのが意外と厄介である事に気付かされます。

漢字は「漢民族の間で発生し、発達した表意文字」（岩波国語辞典第三版）と、簡単に言へさうですが、豈あにはか図らんや、「畠」や「働」といつた「日本で作られた漢字（国字）」なんてものがあつたりします。

かなとは「漢字から生まれた、日本独自の音節文字」（同）であるわけですが、文字の用法の観点から言へば万葉仮名もかなの一種と言ふ事があり、その場合には素材として漢字をすら含んでしまひます。漢字しか「手持ちの文字」がない時代には、漢字の音を借りて和文を表記

したのです。今ではかなと言ふと、ひらがなとカタカナとを指して言ふものと思はれてゐますが、それは素材としての文字の分類である事に注意する必要があります。

ひらがなにしてもカタカナにしても、やつぱり一言では説明ができません。岩波国語辞典でカタカナは「かなの一種」とやつつけられてゐますが、「漢字の草書体から作られた、日本特有の音節文字」と説明されてゐるひらがなも、実はそんな簡単に定義されてよいやうなものはありません。

殊に、現行のひらがなの字体と云ふものが決つたのは案外新しく、明治三十三年八月の「小学校令施行規則」で定められたものです（この時排除された書き方のかなが変体仮名などと言はれるやうになります）。

もともと日本に固有の文字は無く、支那から輸入した漢字を用ゐて何でも書いてゐました。

平安時代まで役所の正式の文書は漢文を用ゐるのが普通でした。けれども日本人は漢文を日本語風に読み下すと云ふ工夫をするやうになります。この時、返り点によ

つて読む順番を指定する方法とともに、フリガナを振つたり日本語の助詞・助動詞・用言の活用語尾等を示したりするのにカタカナを発明する事になります。漢文訓読の方法は漢字かな交じりの表記へと繋がつていきます。

一方、和歌を書くのにもまた漢字しか素材が無かつたわけで、長い間万葉仮名が用ゐられてゐました。けれども、書道の発達過程で、漢字を略し、続けて書く習慣が生じます。そこで草仮名と呼ばれるものが発生し、これがひらがなへと繋がつていきます。万葉仮名を略した書き方が草仮名で、草仮名とひらがなとは区別する事ができません。

いづれにしても、日本人は漢字とかなとを用ゐて日本語の文章を書表し、さうした伝統を江戸時代まで何の疑問もなく続けてきました。

二 近代の日本語の表記

初めて「日本語の書き方」と云ふものが意識的に反省されるやうになるのは、江戸時代末から明治時代にか

ての事でした。この頃、日本には本格的にヨーロッパの文物が流入し始め、アルファベットだけで表記された書物が大量に知識人の目の前に現れ始めたのです。

当時、日本の知識人は「日本は欧米に比べて遅れてゐる」と云ふ危機感を持つてゐました。多くの日本人が欧米の文明をとりいれ、欧米に追付かなければならない、と考へてゐました。さうした彼らが「進んだ欧米に追付く手段」として、アルファベットの採用を考へるやうになつたのも不思議ではありません。少くともシンプルな文字体系の採用は最低限必要だ、と考へて、「漢字を廃止する」事を本気で主張する人々が現れました。のちに郵便制度を確立する前島密が慶應二年に徳川慶喜にあてて「漢字御廃止之議」と云ふ建白書を書いてゐます。以来、漢字廃止論は「日本の近代化」に必須の条件として、多くの人々に主張され、国策に大きな影響を与へて行きます。さきほど紹介した「小学校令施行規則」では、仮名字体の整理統合のほか、字音仮名遣の表音化と漢字制限が指示されてをり、当時の国語改良論の傾向が見て取れます。字音仮名遣とは漢字の音読みの表記法の事で、支那

語音を日本語のかなで書表す決りの事ですが、この決りが厄介なもので、漢字を廃止する障碍となる事から、まづは廃止が企てられたものです。この時には「あう」「あふ」「おう」等と書いてゐた漢字の音読みを「おー」と書くやうに定められ、「棒引き仮名遣」と呼ばれました。

日本語で「漢字を廃止する」主張とは、「漢字以外の文字で書く」事の主張にほかなりません。漢字廃止論は大きく分けてローマ字論とカナモジ論とに分かれます。欧米の先進諸国で用ゐられてゐるアルファベットを用ゐようと云ふ主張がローマ字論であり、先づはかなだけで書かうと言ふのがカナモジ論です。他に、全く新しい文字を創造しようと思ふ主張もありましたが、あまりに非現実的で、すぐに消滅しました。

ローマ字論はすぐに問題を生じます。日本語の音韻（発音の仕方）をもとに定められたヘボン式と、五十音図の並び順に基いて定められた日本式と云ふ二つの方式が提唱され、意見が統一されなかつたのです。それぞれ優位性を主張しましたが、所詮は理論に過ぎないわけで、どちらか一方になんて決めやうもありません。

ローマ字論にしてもカナモジ論にしても、今まで漢字で書いてゐた語をアルファベットやひらがな・カタカナで書くと云ふ主張です。漢字かな交じりで書いてゐた時には問題にすらならなかつた事が次々に問題として現れてきます。「いつか漢字を廃止するのだ」と云ふ事は、ローマ字論者にもカナモジ論者にも、共通した目標です。そのためには、解決しなければならぬ問題が沢山ある。先にも述べましたが、漢字で書いてゐた語を発音に従つて書くとなると、「漢字の読みの仮名遣」の問題が表面化してきます。ここで漢字廃止論者の人々は「仮名遣こそが敵である」と云ふ認識を抱く事になります。

ここで改めて問題とされるやうになつた仮名遣について、説明をしておきます。仮名遣とは「語を書表すのに複数の書き方がある時、どの仮名文字を用ゐるか、を定める決り」の事を言ひます。「か」と言ふのに「か」と書くのは一見当り前の話ですが、「お」と言ふのには「現代仮名遣い」でも「う」と書いたり「お」と書いたり簡単ではありません。

そもそも仮名遣の問題は、書き言葉の宿命的な問題の一つとして考へる事ができます。

どんな言葉でも、話し言葉は変化が激しいものです。発音は非常に速く変化します。話し言葉を記録した書き言葉は、記録された瞬間から話し言葉と「ずれ」始めます。それは表音的な文字の記録だからといつて何うなるものでもありません。むしろ、発音が変化する以上、表音文字による記録は、時代が下れば必然的に新しい時代の話し言葉と「ずれ」るのです。

ただ、古い時代に筆記された文書を手本とする以上、時代が下つても新たに記される文献はしばしば古い時代の文献の表記の規則を守ります。さうして、書き言葉は書き言葉で、話し言葉と異なる規則を持つやうになります。英語でも綴字法が成立してゐますが、それと同じやうに日本語でも「かなづかひ」が成立します。

ただ、日本語では、漢字かな交じりで文章を書き記す習慣が定着してゐました。漢字は表意文字で、それ自体としては発音の変化の影響を受けません。単に読み方かなで示す時、問題が露はなるだけです。漢字には支

那語音に基く音読みと、和語として・意味に基づいて日本語で言つた訓読みとが存在します。訓読みのかなづかひと區別して、支那語音に基く音読み「かなづかひ」を特に「字音仮名遣」と言ひます。ローマ字論者とカナモジ論者が漢字を使はず文章を書かうとして、困惑したのが、この字音仮名遣です。「棒引き仮名遣」では字音仮名遣だけを廃止すると云ふ事になつてゐました。

けれども、和語の仮名遣だからといつて、「優遇」しなければならぬ理由はありません。また、日本語の文章には、もともと、かなで書く部分・助詞・助動詞・用言の活用語尾の部分があり、ここにもかなづかひは勿論ありました。これらを一々見分けなければならぬ必然的な理由は、ローマ字論者やカナモジ論者にはありませんでした。彼らにはもつと厄介な問題があつたのです。

漢字で書いてゐた時には判り易かつた名詞や動詞が、全部かなやローマ字で書くと、さつぱりわからなくなりません。カナモジ表記やローマ字表記では、わかちがきをして、わかりやすくなるやう書かねばなりません。のちに「文節」と云ふ概念が橋本進吉博士によつて提唱されます

が、大体文節ごとにかけて書く、といった規則を、ローマ字論者やカナモジ論者は考へ出さねばなりませんでした。しかしそれこそ文法の知識を必要とし、よくよく考へなければ実行できない事でしたから、さう云ふ厄介事を背負つたローマ字表記やカナモジ表記では、せめて仮名遣を廃止して、使用者の負荷を減らさなければならぬ。

それに、かな文字もローマ字も、表音文字なのだから、発音通りに書くのが「自然である」と、さう彼らは考へたわけです。ローマ字論者もカナモジ論者も、従来の仮名遣を廃止する事を当座の目標として活動するやうになります。

カナモジ論者もローマ字論者も、国語の専門家です——と言ふより、国語の専門家にもカナモジ論者やローマ字論者が発生した、と言つた方が正確でせう。国語を通して日本の国家に貢献すべき人々の中には、漢字を廃止する事を考へる勢力が育つてゐました。東京帝国大学で博言学（今の言語学）を指導してゐた上田万年教授は、漢字廃止論者で、その後の日本の国語政策に大きな影響を及

春の夢跡

雨宮冬明

餘りの熱さに目が覺めると、今まで居た筈の寺は轟々と燃えてゐる。猛り狂ふ焰に負けまいとするかの様に、

「わあつ……」

と言ふ凄まじい戦の咆哮が、人々の悲鳴や馬の嘶きと共に、地響きとなつて傳はつて來た。

(な、何で寺が……。火事か?)

眠氣は忽ち吹き飛び、慌てて飛び起きた處に、

「……お主は、何者ぞ」

背後から野太い聲がして振り返ると、其處には鎧姿の侍が、刀を正眼に構へて立つてゐる。

「得體の知れぬ衣服を着てをるな。顔こそ我らに似てをるが……。本來ならば捕へる所だが、今は其の様な餘裕は無い。刀を持たぬ、抵抗もせぬとは言へ、我らが本陣へ入られては、お主を斬らざるを得まい」

己に言ひ聞かせるかの様に斷言した侍を見ても、未だに狀況が把握出來ず、兔に角斬られてはたまらぬ、如何に

かして逃げねば、と思つて見ても、恐怖に縛られた身體は微動だにしない。腰は抜けさうに成り、足は震へ、何かを言はうとしても、口からは情けない音が漏れる許りである。

「ま、待つて呉れ、此れは一體、何が起きてゐるんだ?」

漸く言葉を絞り出す、侍は間髪入れずに、

「知らぬ存ぜぬでは通らぬぞ。最早、此の戦も七年目。慥かに今、我らは劣勢よ。だが、此の様な處で終はる譯にはいかぬ」

と、半ば悔しさうに叫んだ。

燃え盛る寺を背景に、侍が刀を構へた儘すつと間合ひを詰めて來る。思はず後ろへ逃げようとして何かに躓き、仰向けに地へ倒れ込んだのを見て、今と許りに侍が、
「覺悟!」

と、氣合を發して刀を振り翳したかと思ふと、其れ迄は侍に宿つてゐた殺氣が刀の先へ集まり、猛虎の如くに迫

男の娘爆誕しるし！

かふし

漸く日差しも和らいで来たこの頃。窓から竝木の天邊が見える教室で、今日も漫研の部活が始った。部活と言つても専ら漫画を読むかアニメ談義で駄辯だべつて、擔任から發破を掛けられて部誌を作る程度のものなのだが。

午後の日差しを浴びながら、優香は漫画を読んでいる……振りをしてゐた。

漫画を立てた儘、遠目に眺めてゐるのは、部室の途中で仲間と雑誌を愉しんでゐる齋藤弘輔であつた。

「御前遣つたら似合ふんぢやね？」

「莫迦。これは二次だから良いんぢやんか」

「ははっ、だよなー」

アニメ漫画は其れなりに好きではあつたが、それ以上に氣になつて入部した訣、それが弘輔である。

體驗入部で一目惚れし、即座に入部届を提出。然し女友達は出来こそすれ、弘輔との會話は數へる程で、少々

話しただけで浮れて了ふといふ状態で半年が過ぎた。

「でも三次で漫画レヴェルのがゐたら、見てみたくはあるな」

「そんな奴ゐるか？ ネットで出て来る奴でも大體大した事無いぞ」

何の話なのかが今一判らない。取敢ず持つてゐる雑誌が何なのかを確認しておきたかつた。

徐おもむろに席を立ち、遠目に表紙が確認出来る位置へ移動する。

「怪しまれさうな氣はするが、背に腹は代へられない……さう脳内で言ひ訣しつ、雑誌を覗き込んだ。

『わあい！』

何う言ふ雑誌かは良く分らないが、名前だけは分つたので、そそくさと先程坐つてゐた席へ戻る。

「……歸りに買ふか」

弘輔の興味がある事を知りたい、といふ一心であつた。

驛の近く、大きなショッピングモールにある本屋。此處へ行けば大概の本はあるだらうと思ひ、部活歸りに足を運んだ。……尤もこんな田舎には品揃への良い本屋何てさうさう無く、徒歩で行ける距離には此處しか無いといふのが實情ではあるが。

カウンターを通り過ぎて右折し漫画雑誌コーナーへ直行。恐らく男向けのだらうと思つてその列へ。平臺、面陳と見ても中々見附からず、棚差しを見て漸く一冊だけ残つてゐるのを發見。發賣してから間があつたのだらう。その表紙には煽り文が斯うあつた。

「夏の陽も、秋の夜長も男の娘!!」¹

「フトコノムスメ」つて何だらう……? 疑問符しか思ひ浮ばないが、先づは讀む事にした。

讀み進めると、男——それも可愛く描かれたキャラクタが女裝してゐる。何うやら男の娘——をとこのこ、と讀むらしい——は女裝した少年を指す様だ。

「さういへば、弘輔君の隣に居た仲間——何て名前だつて——弘輔君が女裝したら似合ふとか言つてたな。弘輔君に女裝させたら……似合ふへへ……やば」

うっかり妄想が激しくなつて顔が綻ほころぶ處であつた……最う綻んでゐたかも知れないが。一往邊りを見回す。

「危ない危ない……慥かに弘輔君は可愛い系ですからね、名前は知らないけど仲間は良い目を持つてゐるな」

此儘居續けると又遣りかねないと思ひ、早々に買つて歸る事に。心なしか恥しいのでカウンターへ出す時に裏返して出したが、裏表紙の廣告面も充分恥しかった上に、袋へ入れられる時には表向きにされたので、まるで意味が無かつた。

刈田の中に家々が列なる。所謂ニュータウンである。バス停へ降立つて一、二分程度歩き、築數年の我家へ到着。バッグから鍵を取出す。

「ガチャツ」

親は共働きなので日中居ない。

「只今——」

¹ 株式会社一迅社、季刊『わぁー!』Vol.6より引用。

大好き、よ！ おねえさま

押井徳馬

御機嫌よう、親愛なるまり御姉様。

思へば、まりさんに初めて出会ったのは、学食でのお昼でしたつけ。私の大きなくしやみで制服にしみを付けてしまったのに、嫌な顔一つせず「かうやつて取るのよ」と私に教へてくださったのを、今でもはつきり覚えてゐます。

まりさんに連れられて入った文芸部部室で、ペコ／＼と謝る私の頭を優しく起こした両手の温もりも、「いゝの、もういゝのよ」と囁きかける優しい言葉の、何だかこそばゆい感じも……。

そして、まりさんはセーラー服から体操服に着替へると、布を手にトン／＼。軽やかなリズムでみる／＼うちに元通りの綺麗な服に戻して仕舞ふまりさんの手の、何と神々しかったこと！

何て素敵なんでせう……。さう思ひながら、私はまりさんの指先と、白い花柄のレースの大きなリボンで結ばれた、少

しカールの掛かった栗色の髪を、うつとりと眺めてゐました。

中学時代まで、少し引つ込み思案な部分のあつた私。初めての女子校に初めての電車通学！ 可愛いセーラーの制服！と浮かれてゐても、自分は独りぼっち。この新しいクラスには、私のこれまで知つてゐる人は一人もゐませんでした。それなのに、突然上級生に話しかけられたといふので、一寸緊張したし、迷惑を掛けて仕舞つてすぐく申し訳なかつたけど、この出来事こそ、まりさんが私の憧れの人になつた瞬間でした。部活はもちろん、まりさんと一緒に文芸部に入りました。

そして一月も経つと、私は知らないうちに、クラスのみんなと仲良くなつてゐました。私がどこへ行かうと言ふと、みんなも乗つてくれました。それにみんな、バドミントンが好きな人ばかり。暇さへ有ればみんなで校庭に出て、バドミン



僕の妹は
福田恆存の
『私の國語教室』を
読むか?



佐藤
俊

日本數學史小篇

中山數次郎

はじめに

江戸時代の日本で、數學の文化があつたことを御存じでせうか。江戸時代の數學は大變高度なものであり、また文化的な觀點から多く視るべきものがあります。日本數學史家の三上義夫は、日本の數學を藝術的に優れたものとして評價してゐます。こゝでは我國の文化を紹介する一篇として、皆さんにそんな、江戸時代に榮えた日本の數學の歴史を、お見せいたします。

日本數學の萌芽

日本の數學文化は徳川の時代が始つて間も無い頃に芽生えました。そもくは土木や測量、商賣などの生活的な運用のために土地の見積りや錢勘定といつた算術の必

要性が出て來たのが始まりです。その頃にはそろばんが民間に普及しはじめ、各地に算術の塾も開かれるやうになりました。そろばんは大陸から渡つて來た計算器で、室町末期には一部で行はれてゐたやうです。それまで計算は、算籌さんちゆう（算木さんぎ）といふ木片を並べて行つてゐましたが、そろばんの普及によつて、これより算術が格段と簡易に行へるやうになりました。

そろばんの達人に京都の毛利重能しげよし（生歿年不詳）といふ人がありました。彼は自ら割算の天下一と稱へ、その名を世に鳴らしました。吉田光由みつよし、高原吉種よしたね、今村知商ともあきの三高弟を育て、日本數學の第一人者とされます。

重能に算術を學んだ京都の吉田光由みつよし（二五九八〜一六七二）は、算術書『塵劫記ちんけふき』を出しました。この書は、實用の算術を解説したもののなのですが、繪が豊富に盛り込まれてゐたり、お寺の堂に米俵がいくらはひるかといつた數

は用ゐない人が多いでせう。

その爲、原稿の假名遣の誤りや、正字と新字の不統一等は、新字新かなと比べて、どうしても起こりやすいですから、入念なチェックが必要です。その際、「漢字は正字を使ふのか新字を使ふのか」「『っ』等の小書き假名を使ふか、大書きにするか」「『ゝ』『ゞ』や、くの字點を使ふか」「ルビは字音假名遣にするか」は人によつて方針が違ふでせうから、執筆者に最初に確認しておけば、表記の不統一があつた時でもスムーズな対応が可能です。固有名詞や引用文だけ新字新かなと云ふ事もありますから、正字體への一括變換ではくれぐれもお氣を付けてください。忘れがちですが、ペンネームは正字體にするかどうか確認すると良いでせう。

今回私は、戦前に發行された「言海」「廣辭林」を手許に執筆・編輯を行ひましたが、實は、この時代の歴史的假名遣の規範は古い事があります。たとへば、どちらも「或ひは」を正しい假名遣として載せてみますが、現在は歴史的假名遣でも「或いは」が正しいとされてゐます。古い辭書だけに頼る事

1 戦前でも小學校の國語教科書や辭書の見出し等、促音・拗音である事を明確にする目的で敢へて小書きにする事がありました。また、カタカナで外來語を書く時にも促音・拗音の小書き假名はよく用ゐられてゐました。

なく、現在發行されてゐる國語辭典や古語辭典も併用しませう。

なほ、正字正かなだからと云つて、必ずしも縦書きにこだはる必要はありません。とは云へ、右横書きと云ふ意味ではありません。戦前の算術や英語の教科書を見る機会があつたら、右から左ではなく、今と同じく左から右の横書きである事にきつと驚く事です。本誌はそれに倣つて、左横書きが相應しい記事はそのやうにしてゐます。

正字正かなの文書は、普段作成してゐる新字新かなの文書に比べると、執筆も校正も組版も手間が掛かることは否めません。しかし、その作業を通して正字正かなを學ぶ良い機会にもなるでせう。また、コンピュータの限界に挑戦してみるのも楽しいものですし、パソコンオタクで理系人間の私が今回敢へて正字正かなでの出版に手を出す切つ掛けの一つでもありました。プログラミングに興味のある方は、新字新かなから正字正かなへの變換支援ソフトや、正字正かな文書の校正支援ソフトを作つてみるのも面白いでせう。

この記事から、個人レヴェルでも正字正かなの文書や文藝同人誌等を作成する事が出来る事を知つて頂ければ、そして幾らかでもその爲の助けになれば幸ひです。

字をドラッグして選擇し、「文字」パネルメニューから「分割禁止」を選びます。

PDF 出力

少数の場合、そのままプリンタで印刷して製本すれば冊子が出来上がります。印刷所に發註する場合は、PDF 形式で出力したファイルを入稿します（印刷所によつて對應してゐない場合もありますので、豫めご確認ください）。その際は、必ず、フォントを埋め込む設定にして出力します。なほ、一太郎の場合は、別途 PDF 出力ソフト（Adobe Acrobat を推奨）が必要ですので、ご用意ください。

編輯・校正

正字正かなの本が活版印刷で作られてゐた時代とは、原稿用紙に書かれた手書きの原稿を見て「略字で書かれてるけど、この正字體の活字を拾ふ」といつた、漢字の教養を求められる職人藝の世界でした。その後、原稿をパソコンを用ゐて新字新かなで書くのが一般的になつた現在は、新字新かなで執筆・印刷する限りは、略字を正字に直す手間なく、ほゞそのまま組版に利用出来るやうになりました。

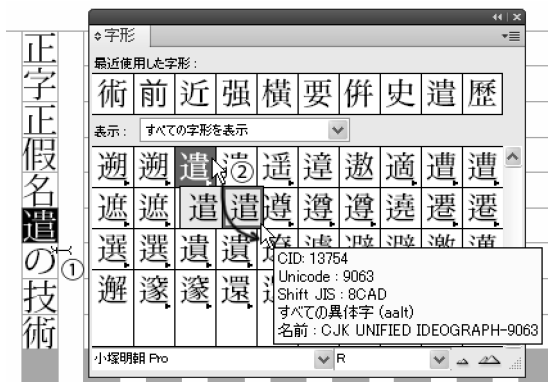
しかし、正字での執筆・出版となる

1 無料の Adobe Reader には PDF ファイル作成機能はありませんのでご注意ください。

と話が變ります。正字體に完全對應したソフトをわざわざ揃へない限り、入力・表示出来る正字體には限界があります。現状、Shift JIS や Unicode で表現出来ない正字體は、略字體で代用表記してもらひ、組版時に正字體に直すのも良いでせう。² さうなると當然、組版には、昔の活版印刷の職人に近いから、正字體に関する知識が求められます。私の場合は、常用漢字の書き方に關する市販の書籍が大變参考になりました。この種の本には、正字體と常用漢字の略字體との對應表や、表外漢字の書換一覽が付いてゐるので、逆に新字から正字への置換へを知るのにも役立ちます。

また、現代で新たに正字正かなの文書を作ると云ふ事は、正字と新字の両方の字體が混在した環境で原稿を書く¹と云ふ事でもあります。日本語入力は新字新かなに特化して設計されてをり、正字正かなは對應してゐたとしても、AI 變換のやうなハイカラな機能は無く、現状飽くまで「おまけ機能」の域を超えませんから、氣を附けないと正字のつもりが新字、或いは逆になる事がよくあります。また、正字正かなに熟練した人も、使い始めて日が浅い初心者もゐますが、いづれにしろ、文藝とネットでのみ使つて日常生活で

2 「青空文庫」(<http://www.aozora.gr.jp/>)の代用表記が参考になるかも知れません。



- ①別の字形にしたい字をドラッグして選択
- ②字形パネルの字を押すとリストが出る。
使いたい字形までドラッグ

図 2. InDesign での異體字切替

ら置換していく事が出来るので便利です。

正字を使った文書を作成する場合は、このダイアログを頻繁に呼び出す事になりますから、使はないファンクションキー等にキー割付しておくとう便利です。

InDesign での異體字切替

InDesign の [ウィンドウ] メニューから [書式と表] - [字形] を選択すると「字形」パネルが表示されます。

InDesign では「プレーンテキストフレーム」または「フレームグリッド」をページに配置し、そこに文字を入れていきますが、このフレーム内の文字のうち、正字體に變換したい文字をマウスでドラッグして選択すると、

「字形」パネルにその文字が表示されます。右下に「▶」が表示されてる場合は、別の字形の文字があります。マウスで押し続けると一覧が出ますので、變更したい文字のところまでドラッグしてください。選擇した文字に入れ替はります。

また、一度選んだ異體字は、フレーム内に限つては字體を保つたままコピー&ペーストが可能です。Unicode で同じコードになる異體字は「検索と置換」ダイアログでの一括置換は出来ません。ご注意ください。

文字結合/分割禁止で禁則處理？

一太郎も InDesign も、禁則處理は新かなに特化してあります。「>」「>」等が次行の先頭に行かないやう禁則處理する事は設定次第で可能ですが、「く」の字點」を含む單語や、拗音・促音の大書きには對應していません。

もし必要なら、分離したくない文字を「文字結合」(一太郎の場合) または「分割禁止」(InDesign の場合) に設定するのも手です。

一太郎では、分割したくない文字をドラッグして選擇し、[書式] メニューから [文字割付] - [文字結合] を選びます。

InDesign では、分割したくない文



- ① 別の字形にしたい字の前にカーソルを移動し
[挿入]メニュー - [記号/リーダ/スペース] - [異体字]
- ② 一覧から使いたい字形をダブルクリック
- ③ ②の前に豫めチェックを付けると連続置換が可能

図 1. 一太郎での異體字切替

Adobe InDesign を使つてみます (2.0 および CS 以降で対応)。ページをまたがった文章が殆どないなら Adobe Illustrator (CS 以降) でも大丈夫ですし、操作方法も概ね同じです。ワープロソフトでは、一太郎 (2008 以降) も使用可能です。フリーソフトの TeX も対応してはいますが、難易度は高めですし、次回説明する予定です。

なほ、この記事では一太郎 2010 および InDesign CS4 で説明してありますが、異體字切替に対応した他のバージョンでも概ね同様の操作です。

フォントの指定を忘れずに

「MS 明朝」のやうな Windows

標準フォント、「小塚明朝 Std」「ヒラギノ明朝 Std」のやうな OpenType Standard フォントは、正字を完全にサポートしていません (たとへば常用漢字表にある文字の殆どは、對應する二點之繞の正字がありません)。

ですから、正字體を使用する文章は必ず「小塚明朝 Pro」「ヒラギノ明朝 ProN」のやうな OpenType Pro フォントを指定します。

一太郎での異體字切替

まづ、文書中で、正字に切り替へたい文字の前にカーソルを移動するか、文字をドラッグして選擇します。

次に、一太郎の [挿入] メニューから [記号/リーダ/スペース]-[異体字] を選擇すると、「異体字」ダイアログが表示されます。異體字の一覧が表示されますので、適切な漢字をダブルクリックする (またはクリックした後、[OK] ボタンを押す) と、選擇した文字に入れ替はります。

なほ、漢字を選ぶ前に「同じ種類の異体字を検索して設定/変更する」にチェックを付けておくと、文書内の同じ文字について、一つ一つ確認しながら

正字正かな文書作成のヒント

第一回 一太郎・InDesign 篇

押井徳馬

本誌は、正字正かなでの組版に、テック(テフ) TeX および Adobe InDesign と云ふ二種類のソフトを使用しました。技術の進歩により、かつては難しかった、パソコンによる正字正かなの文書の作成や印刷も、今や不可能でなくなつたのです。

今回は、一太郎、および Adobe InDesign で正字正かなの文書を作成する方法を簡単に紹介します。たゞしソフトの基本的な使ひ方は割愛しますので、一般の参考書籍を御覧下さい。こゝでは、正字正かなに關係した事柄のみ扱ひます。

必要なソフト

新字正かなであればパソコン附屬のフォントと Word 等でも良いですが、正字を使ふなら、まづ、正字體對應のフォントが必要です。今では Windows でも Mac でも、OpenType Pro 對應のフォントを使へば可能です。最近の Mac では「ヒラギノ明朝

1 Adobe-Japan-1-4 (文字数は 15,444) 以降の規格に對應の OpenType フォント。それに対し、Adobe-Japan-1-3 (文字数は 9,354) 對應のフォントは OpenType Standard と呼ばれます。

Pro/ヒラギノ角ゴ Pro」フォントが搭載されてゐます。Windows には残念ながら最初から付いてませんので、別途購入の必要があります。参考までに本誌では、「ヒラギノ明朝 Pro/ヒラギノ角ゴ Pro」フォントを中心に使つてゐます。正字正かなにも新字新かなにもマッチする綺麗なフォントで、お勧めです。Adobe InDesign や Illustrator をお使いの方は、附屬の「小塚明朝 Pro/小塚ゴシック Pro」を使つても良いでせう。

なほ、最近では「JIS2004 対応」と銘打つて、フォントの一部が傳統的字體になつた事を強調した宣傳を見掛けますが、これと「OpenType Pro 對應」とは別の話ですので、ご注意ください。必ず、「Adobe-Japan-1-4 (またはそれ以降) 對應」の「OpenType」フォント (TrueType は不可) かどうかを確認してください。

次に、上記 OpenType フォントの異體字切替²に對應した文書作成ソフトが必要です。私は市販ソフトの

2 國語的な意味での「異體字」と違ふ事にご注意。OpenType の世界では、正字・略字・異體字・俗字等「違ふ種類の字體全般」と云ふ意味でこの語が使はれます。